

研修実施報告書

研修名

発達障がい児の母に学ぶ子育て家庭の防災

法人名

社会福祉法人ご縁会

開催年月日

2025年10月11日(土)

開催場所

立命館大学びわこくさつキャンパス エポック立命21多目的ホール

研修の目的

発達障害など外見では分かりにくい障がいを持つ子どもたちへの理解を深め、災害時における支援の在り方を学ぶことを目的として実施しました。講師の実体験を通して、障がい児が災害時に直面する課題や支援の具体的な方法を学び、参加者同士の意見交換を通して地域としての対応や協力体制について考える機会としました。これにより、誰もが安心して暮らせる包摂的な地域防災体制の構築を目指します。

研修の内容

発達障害児の母であり、「外見だけでは分からない障害×防災」の活動を行っておられる一般社団法人チャレンジド LIFE 代表・畠中直美氏を講師に招き、研修を実施しました。畠中氏は発達障害児を育てる母親としての経験や、能登半島地震で実際に体験した災害時の困難をもとに、外見では分かりにくい障がいを持つ子どもたちが災害時に直面する課題や支援の必要性について講話されました。

研修では、発達障害の基礎知識や特性を事例や映像を交えながら学ぶとともに、講師の実体験から、障がい児や家族が日常で抱える困難や震災時の実態について理解を深めました。また、チャレンジド LIFE が実施した全国調査や防災アンケートの結果をもとに、社会全体の発達障害への理解の現状や課題についても共有がありました。会場内では、「たいせつなもの展」や写真展、屋外では、車イス避難体験などの体験型ブースも設置し、参加者が五感で防災を学ぶ機会となりました。「大切なものを守るには、まず“気づくことが大事”との声も聞かれました。

研修の成果（今後地域に活かされる点を必ず記載）

本研修を通して、発達障害など外見では分かりにくい障がいを持つ子どもたちが、災害時にどのような困難に直面するのかを具体的に理解することができました。参加者からは、「初めてのテーマで知らないことが多く、全体的に印象に残った」「小さな気づきが人の心を救い、命を救うことにつながると感じた」といった感想が寄せられ、障がいに対する理解や関心が大きく高まりました。また、「行政として、障がいのある方やその家族に心理的安全性をどう提供できるかを考えたい」「『外見だけでは分からない障害×防災』は行政としてもしっかり捉える必要がある」といった意見もあり、立場を超えた意識の共有が生まれました。こうした声は、地域全体で支え合う防災体制を築くための貴重な第一歩となります。

今後は、研修で得た気づきを地域防災訓練や避難所運営マニュアルの見直しに反映し、発達障害児やその家族への配慮を実践していきます。さらに、自治会や学校、消防、福祉施設などと連携し、障がいの有無にかかわらず誰もが安心して参加できる「共生防災ワークショップ」や「地域支え合い訓練」などの取り組みへ発展させていく縁をつなげればと考えます。

研修の参加者

【全体人数】 85名

【当該法人の参加人数】 50名

【当該法人以外の参加人数】 35名